学生の音楽活動への家族のサポートと葛藤

佐藤典子

(東海大学)

キーワード: 音楽活動、家族のサポート、葛藤

Family support for student's musical activities and family conflict

Noriko SATO

(Tokai University)

Key words: musical activities, family support, family conflict

目 的

国内では、幼少期からの音楽の習い事が様々な形で勧められ、保護者も積極的に習わせようとする傾向がある一方で、本人の音楽への傾倒が進む青年期の音楽活動、特に高校や大学に進学する際に音楽系へ進むことを必ずしも推奨しない場合もある。本研究では、音楽活動を行ってきた学生が、どのように自己の音楽活動への家族のサポートと家族との葛藤を認知しているかについて、調べることを目的とする。

方 法

調査状況と回答者 関東圏の私立総合大学で、「音楽心理学」を受講する学生を対象に 2007 年 6 月、2008 年 6 月に行った。受講学生のうち、約半数は大学で音楽を専攻する学生であり、それ以外の学生の所属は様々であったが何らかの音楽演奏活動を現在行っている、または過去に行っていた学生がほとんどであった。回答者は、2007 年 27 名、2008 年が 50 名であった。

質問内容および回答方法 回答は無記名で自由記述とした。質問内容は、これまで行ってきた音楽活動を振り返り、両親等の家族から受けた影響について具体的な記述を求めるものであった。「影響」の内容として、音楽の技術や知識に直接かわるもの以外にも、音楽活動を行う上での精神的・金銭的サポートや、音楽活動を行うことに否定的な態度を示すことも含めて考えさせた。また、音楽専攻の学生に対しては、特に大学で音楽を専攻することに関して、家族から受けた影響がある場合には具体的な記述をするよう求めた。

結 果

2007 年調査で回答した 27 名分の記述のうち、明確に大学で音楽を専攻していることを記述したのは 15 名、記述内容から音楽を職業とすることを決めている等、音楽専攻学生かそれに準じると思われる学生が 2 名、それ以外が 10 名であった。2008 年調査分については、同様の分類で 18 名、3 名、29 名であった。

全体としては、家族の音楽の好みや演奏経験、習い事開始時の勧めや金銭的・精神的サポート等何らかのポジティブな影響について多くの回答がなされており、何も影響がないという回答は、音楽専攻外と思われる回答の 1 件のみであった。

音楽を習いはじめのきっかけとして、母親等からの勧めや、兄弟姉妹が習っていたことを挙げるものが多く、自分ができなかった分を子どもにやらせたいとの母親の思いを示す回答もあった(「自分がピアノを習いたくてもできなかったのも、子どもにやらせてあげたいと思っていたそうです。」。一方で、親の思いの強さがネガティブな影響を与えた可能性を示す記述もあった(「小さい時に親から厳しく指導をされた事により、一種の「恐怖」としてのイメージがあった。」「小さい頃の練習はやりたくなくて逃げていると、追いかけてまわされてつかまえられて、ピアノの後ろに仁王立ちされながら、泣き叫んで練習してました。」「よく、叩かれ全身あざだらけな幼少時

代を過ごしました。」)。

音楽専攻の学生の回答と思われるもののうち、多くの回答は家族のサポートや支持を示すものであった。元々家族が音楽好き、あるいは演奏経験があるなど音楽環境に恵まれていることを示す記述もあるが、家族が必ずしも音楽への興味や関心が強くなくとも、子どものやりたいことを尊重し、協力を示そうとする両親の様子がうかがわれる記述も多かった(「親から自分のやりたいことをするのが一番だといわれて、音楽をする決心ができました。」)。

大学で音楽を専攻することや、音楽の分野で将来仕事をしていくことに明確に反対があったことを示す回答は、音楽専攻を明記した回答のうち 4 件、それに準じる学生の回答のうち 3 件であった(「大学に入るにあたって、猛反対を受けて...。」「中 3 の時に音楽で食べていきたいと親に言ったら「そんな危ない橋をわたるようなまねはやめろ」だの「あんたには無理」だの言われて腹が立ちました。」。)。実際には、反対はされたが説得して、または自分の主張を通して入学ないし音楽活動の継続をしており、現在ではポジティブな影響として解釈している回答もあった(「前よりも確実にやる気は増しました。」「逆に火がつけました。」「恩返しをできるように、しっかり勉強したいと思います。」。)。ただし、家族との関係に問題が残っていることをうかがわせる回答もあった(「父はものすごく反対して、自分も父が嫌いでした。」「家での練習は時々非協力的です。」。)。

明確な反対ではないが、それに類する態度を報告する回答も 5 件あった(「遠まわしに反対されました。」「音楽は、お金がかかるから、できたらやめてくれとも言われたが...。」「父は私の音大受験はたぶん反対だったと思います。」。)。

音楽専攻ではないと思われる回答の中で、家族の反対もあって進学しなかったとの回答が 1 件あったが、「趣味でピアノを習っている時と、専門的にピアノを習おうとしたときの両親の態度は異なると思った」という分析を本人が行っていた。

考 察

音楽活動を開始し、継続することについて、様々な形で家族、特に両親の影響があることが示され、その多くはレッスンの勧めや、金銭的・精神的サポート等のポジティブなものであることが確認された。一方で、本人の意志よりも親の意向が優先してしまい、家族間の葛藤や、本人の心理的ダメージをうかがわせる記述もあった。

特に、大学で音楽を専攻することや、音楽領域の仕事を志すことについては、ほぼ全面的な支持を示される場合と、反対ないし懸念を示される場合に分かれた。反対を示される場合の中でも、親子間の感情的な対立や、音楽活動へ勧めたにもかかわらず音楽系の大学への進学には反対するという親の矛盾する態度に学生が違和感を覚えるなど、進路決定時の問題が大きい場合には、家族外からの介入も含めたサポートのあり方を考える必要があるだろう。